

船舶事故調査報告書

令和4年4月27日
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	転覆
発生日時	令和3年9月26日 07時10分ごろ
発生場所	北海道枝幸町オホーツク枝幸北漁港問牧地区 問牧港東防波堤灯台から真方位319°360m付近 (概位 北緯44°59.6′ 東経142°32.6′)
事故の概要	プレジャーボート第18恵比須丸は、錨泊中、転覆した。
事故調査の経過	令和3年10月13日、主管調査官（函館事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート 第18恵比須丸、2.33トン
船舶番号、船舶所有者等	200-40250北海道、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	なし
損傷	船外機に濡損
気象・海象	気象：天気 曇り、風向 西南西、風力 3、視界 良好 海象：うねり 波向北東、波高約0.5～1m、潮汐 下げ潮の初期、海面水温 約15～18℃
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、同乗者3人を乗せ、オホーツク枝幸北漁港問牧地区内の釣り場で、船外機を停止して船首から錨を降ろし、両舷から釣り竿を出して、さけ釣りを開始した。</p> <p>本船は、釣りを続けていたところ、船首が南西方に向いた状態で、船尾方から波高約1mの波を受け、左舷側に傾斜して転覆した。</p> <p>船長及び同乗者3人は、海に投げ出され、付近にいたゴムボート2隻に救助された。</p> <p>本船は、来援した漁船によってオホーツク枝幸北漁港問牧地区にえい航された後、陸上に引き揚げられた。</p> <p>本船は、和船型の船外機船で、FRP製であった。</p> <p>船長及び同乗者3人は、救命胴衣を着用していた。</p> <p>本事故発生場所付近の水深は、約2～5mである。</p> <p>船長は、本事故当時、約0.5mのうねりを受けていたが、これまでも同程度のうねりがある中で釣りを行った経験があり、釣りを続けても問題ないと思っていた。</p> <p>気象庁のホームページによれば、1,000波に1波は有義波高の2倍近い波高の波も観測されるとされている。</p>
分析	本船は、錨泊中、約0.5mのうねりを受ける状況下、船長が、これまでに同程度のうねりがある中で釣りを行った経験があり、問題ないと思い、釣りを続けていたことから、船尾方から波高約1mの波を

	受け、左舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。
原因	本事故は、本船が錨泊中、約0.5mのうねりを受ける状況下、船長が、これまでに同程度のうねりがある中で釣りを行った経験があり、問題ないと思い、釣りを続けていたため、船尾方から波高約1mの波を受け、左舷側に傾斜して転覆したものと考えられる。
再発防止策	今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。 <ul style="list-style-type: none">・ 小型船舶は、波等の影響を受けやすく、1,000波に1波は有義波高の2倍近い波高の波も観測されるので、船長は、錨泊をする際、風や波の少ない場所を選択すること。